（第２号様式）

令和４年３月 24 日

県立横浜立野高等学校長

令和３年度　学校評価報告書（目標設定・実施結果）

	視点	４年間の目標（令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	総合評価（３月 16 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	（３月４日実施）	成果と課題	改善方策等
1	教育課程 学習指導	○生徒が主体的に学ぶ意欲を高め、確かな学力を身につける教育課程編成や組織的な授業改善に取り組む。 ○学校行事や生徒会活動を工夫・充実させ、生徒の主体性、協調性の育成を図る。	①生徒に考えさせる授業を行い、生徒の主体的な学習意欲の向上を図る。 ②コロナ禍における行事の企画・運営に生徒を参画させ、主体的に活躍できる環境を整える。	①各教科でＩＣＴ機器活用を含めた授業改善を推進し、研究授業を実施する。教科の枠を越えて積極的に授業参観を行う。 ②各行事の企画、運営にあたって、実行委員を組織し、生徒中心の運営を一層進める。	①組織的な授業改善が推進され、生徒の学習意欲に向上が見られたか。積極的に授業参観を行ったか。 ②生徒が行事の企画運営に主体的に携わったという意識を持つことができたか。	①年に２回授業研究週間を設けた。分散登校期間にオンライン授業を積極的に実施した。 ②「クラスの日」は、実行委員と生徒会役員を中心に準備し、実施した。「立野祭」は準備を進めたが、緊急事態宣言により中止した。	①ＩＣＴ機器を活用しながら、どのようにして生徒が主体的に学習活動を行えるかを検討する必要がある。 ②「立野祭」の代替として部活動発表会やオンラインの動画配信等を実施し、生徒の活動成果を発表した。	①分散登校やオンライン授業により、これまでは見られなかった生徒の教育活動につながった面もあったと考えられる。 ②魅力と特色の生徒アンケート結果で、「高校生活の満足度」が 80%以上であり、授業や学校行事への高い評価である。	①９月の分散登校期間中はほぼすべての教科でオンライン授業を実施した。研究授業の実施と振り返りの研修会は充実しているが、生徒の主体的な学習活動については継続して検討する必要がある。 ②クラスの日、球技大会など昨年は中止だった行事について、いずれも生徒主体で企画・運営を行った。中止になった学校行事等を来年度はどのように企画・運営するか、早い段階から検討する必要がある。	①授業力向上推進重点校の指定も含め、研修会や研究授業の拡充と生徒に対してよりきめ細かな対応を検討する必要がある。 ②コロナ禍の影響も考慮した行事のあり方、形態を模索するとともに、今後も生徒が中心となって行事を企画運営する場面を拡充していく。
2	（幼児・児童・） 生徒指導・支援	○日常的な生徒指導を通して社会規範を身につけるとともに、部活動等において自己実現に向けて努力する姿勢を育てる。 ○個に応じた相談・支援体制の充実を図る。	①集団や社会の一員としてふさわしい振る舞いを身につけるよう指導の充実を図る。 ②個々の生徒に対して、きめ細かい相談・支援をするための体制を整備する。	①生活保健グループが立案した指導方針を全職員で共有し、様々な機会を通して指導を徹底する。 ②担任による面談や必要に応じたケース会議の開催、スクールカウンセラーを有効に活用する。	①全職員が統一した指導を行うことができたか。 ②支援を必要とする生徒に、ケース会議等の取組みが生かせ、課題解決に至ったか。 ②教育相談窓口の周知が積極的に図られたか。	①生徒指導事案が起きた際、グループと当該学年で細やかに情報共有し、諸機関とも連携しながら、速やかに対応できた。 ①規範意識の向上は、担任を中心に生徒に周知した。 ②コロナ禍ではあるが、教育相談はきめ細かく対応した。	①コロナ禍において、生徒情報の把握が以前より困難になっている。今後も家庭と細やかに連絡をとり、生徒把握を行う。 ②教育相談・生徒指導では様々な機関との連携が大切である。担当職員によらず外部機関と学校との関係を継続していく。	①生徒の登下校時のバス乗車では、座席を空ける、奥につめる、降車時の挨拶など、とてもマナーがよく、社会規範を十分身につけていると評価できる。 ②コロナ禍において、生徒の精神的ケアが難しい。学校や社会と乖離しているケースの可能性もある。今後もきめ細かな相談・支援をする必要がある。	①問題行動が発生した際、学年団全体で役割分担し、きめ細かく対応することができた。 様々な機関と連携することは、とても大切であるが、当該の窓口となる教員の負担を考慮する必要がある。 ②教育相談ではＳＳＷとも連携し外部機関と歩調を合わせることができた。しかし、場合によっては学校側と外部機関の考え方が異なる場合もあり得るため、生徒にとって最適な支援策について、協力しながら検討する必要がある。	①学年会議で意見交換を活発に行い、状況や指導方針を共有し、役割分担を決めてきめ細かく対応していく。 ①今後も様々な機関とは日頃から信頼関係を築き、生徒の問題や課題に速やかに対応できるように努める。 ②教育相談の件数は増加傾向にあるため、経験のある人材が必要である。教育相談コーディネーター等の養成に積極的に取り組んでいく。
3	進路指導・支援	○生徒一人ひとりの進路希望を実現できるよう進路指導体制・教育相談体制・学習支援体制の充実を図る。	①生徒が自ら考え自己実現していく力を身に付ける学習の支援体制の充実を図る。	①進路ガイダンスを各学年の適切な時期に実施し、学年と協力して希望進路実現に向けた支援を行う。 ①進路室や自習室を整備し、生徒の積極的な利用を促す。 ①総合的な探究の時間を有効に活用したキャリア教育を実践する。	①適切な時期に効果的なガイダンスを実施できたか。 ①生徒の進路室利用が学年を問わず増えたか。 ①生徒が進路目標を設定し、その実現に向けて取り組む力を付けられたか。	①各学年ガイダンスを実施し、それぞれの学年に応じた進路学習を行った。 ①夏季休業中に自習室を設置し、利用を促した。 ①職業調べや自分に合った進路先の研究、志望理由書の書き方講座など、総合的な探求の時間を活用して実施した。	①３年間を見通したガイダンスの計画を立てる。 ①自習室の活用について、生徒に周知、徹底させる。進路室の利用法については、検討を継続する。 ①系統的な学習が行えるよう、総合的な探究の時間の内容をその都度検証していく必要がある。	①魅力と特色の生徒アンケート結果で、「将来の夢や希望を持てた」「きめ細かなガイダンスや相談の機会があった」が、ともに 80%以上であり、高い評価である。	①対面による生徒向けガイダンスに加え、ＩＣＴ機器を利用した保護者向け説明会を行い、計画通りに適切な時期に効果的に実施できた。 ①進路室の環境を整え、年度後半は赤本の貸し出しや、パソコンの利用が増えた。赤本の貸し出し希望が多く、管理を検討する必要がある。 ①各学年の総合的な探究の時間の年間指導計画に沿った適切な進路指導を行う必要がある。学年間の情報を共有し、系統的な学習が行えるよう今後も検証を続ける。	①ガイダンス、説明会におけるＩＣＴ機器の効果的な活用について、ＩＣＴ推進チームと協力しながら進めていく。 ①今後も学習環境の整備に努め、生徒の学力育成の支援を行っていく。進路室の環境の改善を行い、進路についての情報収集や自習室として、より生徒が利用しやすい環境を整えていく。 ①様々なデータをグループ内で共有し、進路指導体制の強化を図る。キャリアパスポートの有効活用を継続して検討する。

	視点	４年間の目標 （令和２年度策定）	１年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価	総合評価（３月 16 日実施）	
				具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等	（３月４日実施）	成果と課題	改善方策等
4	地域等との協働	○地域貢献活動や地域との協働活動等を充実させ、地域とともにある学校づくりを推進する。	①コロナ禍でも可能な限り生徒主体の活動を行わせていく。 ①活動可能な地域貢献活動を考えさせ、充実を図っていく。	①間門小学校と連携したアイサツタイム、見守り活動を継続していく。 ①地域と関わる企画を設け、地域との関係を深めていく。	①生徒が活動を通じて自己肯定感を持つことができたか。 ①地域の一員であるとの意識を高めることができたか。	①11 月から間門小学校と連携したアイサツタイム、見守り活動を再開した。 ①地域貢献活動の実施計画を立てたが、コロナ禍により実施できなかった。	①コロナの感染状況を踏まえ、実施可能なものを考え行っていきたい。	①小学生にとって高校生がよいモデルとなり、大きな声で挨拶ができるようになった。今後の新しい企画にも期待したい。 ①中学校の夏休みに、コロナ禍での医療従事者への感謝としてランタンを飾り好評だった。高校でも同様の地域貢献活動を検討してみてはどうか。	①コロナ感染予防の観点から、地域清掃活動の実施は見送った。11 月より間門小のアイサツタイム、見守り活動は再開した。生徒会役員、参加した部活動の生徒の多くが自己肯定感を感じることができた。 ①地域の多くの行事が中止となった。今後もしばらくはイベントや対面での行事の実施が困難なことが予想されるため、その対応を検討したい。	①このような状況で、どのようにしたら活動が実施可能か、新しい形態も含めて検討を続けていく。
5	学校管理 学校運営	○安全・安心・快適な学習環境の整備に向けた取組みを一層推進するとともに、不祥事防止を通じて保護者や県民から信頼される学校づくりを確立する。 ○学校の教育活動に関する情報発信を積極的に行い、学校への理解が深まるよう努める。 ○生徒と向き合う時間を確保するために、組織的な学校運営と校務の効率化を図る。	①コロナ禍における防災活動の充実に取り組む。 ①校内美化および衛生管理の徹底を継続する。 ①ＰＴＡ主催の活動に積極的に関わっていく。 ②学校ＨＰや学校説明会の充実を図る。 ③「働きやすい・働きがいがある」の視点を持ちながら業務の効率化を進め、教職員の負担軽減を図る。	①様々な状況下における具体的な対応を想定しながらマニュアルを更新する。 ①ＤＩＧ研修会をはじめ防災学習の方法を検討し実施する。 ①毎日の清掃活動や消毒作業を通して校内美化の徹底および衛生管理に取り組む。 ①ＰＴＡ委員会各担当者を中心に、円滑な連携を図る。 ②生徒主体の説明会を企画し、本校の魅力を積極的に発信していく。 ③業務の目的や手順を検証し、効率化できる部分をピックアップする。	①防災マニュアルの内容を更新できたか。 ①コロナ禍において、防災学習を実施できたか。 ①校内美化および衛生管理の徹底に取り組めたか。 ①ＰＴＡとの連携・情報共有ができたか。 ②効果的なＨＰの運用と、説明会等の参加者が、充分に本校の魅力を感じることができたか。 ③業務の効率化が図られ、教職員の負担軽減ができたか。	①作成指針の改定を参考に、防災活動マニュアルを検証し、更新した。 ①津波被害に関して防災教室をオンラインで実施した。 ①メール連絡を中心に、ＰＴＡ役員と情報共有や業務の確認を行った。 ②８月にオープンキャンパスを３回実施し、学校説明、校内見学会を行った。延べ 900 名以上が参加した。 学校説明会は、オンラインで全体説明を行い、校内見学と個別説明会の形で実施した。 広報活動として、ＳＮＳ等を活用した。 ③いくつかの業務は、手順を検討し見直した。 コロナ禍により在宅勤務をする職員も増えた。	①防災カードの整理を急ぐとともに、防災に関する生徒の主体的な活動について検討する。 ①新型コロナの感染状況によって、ＰＴＡ活動の変更を余儀なくされた。必要に応じて、早めに検討し対応する。 ②本年度も新型コロナの影響で、部活動体験は、変則的な実施になった。８月のオープンキャンパスは、次年度継続実施を検討したい。情報発信手段として、ＳＮＳ等の更なる活用を目指す。 ③新型コロナの感染防止だけでなく、今後も必要に応じて在宅勤務ができるようＩＣＴ機器の活用を推進する。	①ＤＩＧ研修会は、まさに生徒が考える授業にふさわしい。今後実施できるよう検討してほしい。 ②ＰＴＡ活動を再考し、これまでの委員会主体の活動だけでなく、ワンデイボランティアなど保護者が参加しやすい形態と各委員会の仕事の仕方などを検討したい。	①昨年度取り組むことができなかった防災教育を実施できたことは評価できるが、生徒の主体的な防災学習はコロナ禍において実施できなかった。 ①丁寧な清掃活動や消毒作業の徹底により、校内美化や衛生管理に努めることができた。 ①メール連絡を中心に、ＰＴＡ役員と情報共有・業務の確認ができた。 ②新たに８月にオープンキャンパスを実施したことで、中止になった全公立展、公私合同説明相談会を補うことができた。学校説明・校内見学会には延べ 900 名以上の参加があり、次年度の実施も検討したい。学校説明会は、オンラインで全体説明を行い、校内での密を緩和しながら校内見学・個別説明会を手厚く行うことができた。 ②広報活動として、ＳＮＳ等の活用ができた。 ③２月から私費会計処理をインターネットバンキングに切り替え、業務の効率化と手数料の削減を図ることができた。	①ＤＩＧ研修会をグループ学習形式にこだわらず、個別学習形式を取り入れる等、柔軟に実施できる形式を検討し試行していきたい。 ①新型コロナの感染状況によって、ＰＴＡ活動の変更を余儀なくされた。今後も、予断を許さない状況が見込まれるので、オンライン会議等の実施も視野に入れて検討する。 ②本年度も新型コロナの影響で、部活動体験は、変則的な実施になった。８月のオープンキャンパスは、時期・回数を含めて検討する。情報発信手段・仕方について、オンライン・ＳＮＳ等の更なる効果的な活用法を継続して検討する。 ③来年度以降も業務の目的や手順を検討し、効率化を図りながら生徒と向き合う時間を確保する。